

質問者No.	質問No.	質問内容	回答	備考
1	1	太陽光発電以外で市として推進していく再生可能エネルギーはありますか。例えば、畜産資源を利用したバイオマス発電など。	太陽光発電以外で再生可能エネルギー導入が期待できる方法としては、ご質問のとおり畜産の糞尿や食品廃棄物、家庭生ごみなどを資源にしたバイオマス発電や廃棄物の焼却の際の熱エネルギーを利用した廃棄物発電なども模索してまいります。	
2	2	ゼロカーボンに向けたいくつかの有効策のうち、一番効果的なものはなんだと思いますか。	八千代市の再生可能エネルギーの導入ポテンシャルは、「太陽光発電」が最も高いため、これを中心に施策を展開するのが効果的と考えます。また、市域の温室効果ガス排出量のうち、産業部門からの排出の占める割合が約半分以上と大きいことから、事業者と連携した取り組みや働きかけが重要と考えます。	
3	3	八千代市は中学校の制服のデザイン変更が始まっており、不要になって捨てられる制服が大量に出てきます。ゼロカーボンを謳っているが大量廃棄になることをどう思うか。先日市のメールで「買う前に捨てる時のことを考えて」と来ましたが、部分的なデザイン変更で廃棄を少なくするなど考えられるのではないかと。LGBTQ対応は"どちらの制服を着ても良い"で解決すると思います。子どもたちにSDGsを教えているのに大量廃棄はいかぬものか。	市の温室効果ガス排出量のうち、廃棄物の焼却に由来する温室効果ガスの占める割合は5割を超えており、ご指摘のとおり廃棄物の削減は大きな課題となっております。いただいた貴重なご意見については、担当部門にも共有させていただきます。 なお、制服については、デザイン変更があった場合も、在校生が既に着用している旧制服を廃棄してまで新制服に更新しなければならない訳ではなく、旧制服を着続けることも可能となっております。	
4	4	自転車利用の促進策をもっと。レンタサイクルを増やすだけでなくもっと安く。	より一層の周知啓発に努めてまいります。	
4	5	公共交通機関の利用促進策をもっと。例：乗り換え割引（100円とか）京成⇄東葉、バス⇄鉄道、バス⇄バス	担当課と連携し、コンパクト・プラス・ネットワークを推進するほか、公共交通の利用促進について、より一層の周知啓発に努めてまいります。	
4	6	カーシェアリングや相乗り（2人以上乗車）の促進	より一層の周知啓発に努めてまいります。	
4	7	フードロス対策をもっと（3010運動の徹底など、1010でもいい）	より一層の周知啓発に努めてまいります。	
5	8	給食の残りや家畜の排せつ物、梨の剪定枝、里山の侵入竹林などを用いた八千代市におけるバイオマス発電の実現性について	農業・酪農・里山活動が多く行われている市北部は工業団地が近いという利点があるので、ポテンシャルはあると感じています。企業や家庭の食品系廃棄物や給食残さの活用も含め、実現可能性について模索していきたくと考えております。	
6	9	八千代市は宣言は早かったが実行が遅れているのは何故か（行政の貧困か）。	宣言後、住宅用設備等脱炭素化支援事業補助金の予算を拡大するなどし、取り組みを進めてまいりましたが、公共施設における太陽光発電設備の導入などは先進的な自治体に比べ実行が遅れていることは否めません。令和6年3月に「八千代市地域脱炭素ロードマップ」（以下、「ロードマップ」と省略）を作成したところでありますので、それに基づき推進に努めてまいりたいと考えております。	
6	10	そのせいか、再エネ導入実績や炭素削減実績値が市民には伝わっていない。あわせて市民活動団体の努力も実績値が不明である。実績の見える化が大切。	環境省の自治体排出量カルテによる、市域の温室効果ガス排出量の状況については、「八千代市地球温暖化対策実行計画（区域施策編）」（以下、「区域施策編」と省略）やロードマップにおいて公開していますが、数値は県内の排出量を按分して算出されたものであり、詳細な実績が見えづらいと認識しております。自治体排出量カルテとは別の手法での実績管理等が可能か研究したいと考えております。	
6	11	市内のライトアップ行事などへ積極的な利用を呼びかけるべき。	令和6年より、「新川千本桜まつり」において、連携協定事業者である株式会社アーステクニカ様のEVバスを活用したライトアップを実施しております。今後も積極的に活用を図ってまいりたいと考えております。	
7	12	太陽光発電設備の推進は目に見える取り組みですが、カーボンニュートラルとして、森林保全などの本市の展望はどのような方針でしょうか。	区域施策編やロードマップにおいて、二酸化炭素の吸収源としての緑の利活用に関する方針や取り組みについて記載しております。具体的な取り組みの例としては、里山楽校等による谷津・里山の保全・活用担い手の育成、都市公園・街路樹等の適正管理等に取組み、J-クレジット制度などを活用したカーボン・オフセット事業についても検討していくこととしております。	

8	13	地産地消の電力会社を作りませんか。八千代市内で「経済」が回るように。	地域新電力会社の設立は、地域での再エネ電力の供給や経済の循環といった利益を産み出すことができると感じております。今後、実現可能性について模索していきたいと考えております。	
9	14	太陽光パネルの更新時の廃棄問題はどこまで進んでいますか。	国では、令和4年より、10kW以上のすべての太陽光発電のFIT・FIP認定事業者に対して、太陽光発電設備の廃棄費用の積立制度が開始されています。また、リサイクル等の推進に向けたガイドラインを作成し、適切なりサイクルを求めています。	
10	15	八千代市の廃棄物処理施設（清掃センター）では、熱やゴミを利用した電化、エネルギー化をしていないと思いますが、ゼロカーボンシティを目指すなら必須な取組みだと思います。市の認識、取組み状況について教えてください。これからの取組みを教えてください。	清掃センター焼却炉の余熱利用といたしましては、場内給湯や温水プールに利用してきた実績がございます。今後の施設改修の際に更なる活用が可能か関係部局と調整してまいりたいと考えております。	
11	16	八千代市も脱炭素をがんばっているように思えますが、八千代市が脱炭素先行地域に選ばれるためには何が足りないのでしょうか。	公共施設での再エネ・省エネの推進に加え、市民・事業者等のステークホルダーとの協働に基づき、地域への再生可能エネルギーの供給や、それによる地域経済の循環をもたらす取組みが必要と考えます。	
12	17	今後自治体として最優先で取り組まなければならないことは何ですか。	市民・事業者等のステークホルダーと協働した取組みも重要ですが、まずは市の公共施設での再エネ・省エネの推進が必要だと考えます。	
12	18	市民として何をしていくべきですか。	ご自身の普段の生活の中から取り組める温室効果ガス削減のための活動を見つけて、実行に移していただくことが重要です。節電やゴミの削減などの身近なことから、太陽光パネルや電気自動車の購入などの大掛かりなことまで、取り組める内容は多岐に渡ります。環境省では「デコ活」を推進しておりますので、是非取組みの参考としてください。また、蓄電池や窓の断熱改修、電気自動車の導入等に対しては、市の補助金があります。	環境省「デコ活（脱炭素につながる新しい豊かな暮らしを創る国民運動）」 https://ondankataisaku.env.go.jp/dekokatsu/ 八千代市住宅用設備等脱炭素化促進事業補助金 https://www.city.yachiyo.lg.jp/site/promo/48330.html
13	19	八千代市の電力、ガスによるCO2排出量はどのくらいか。今後再エネまたはCO2排出ゼロのものに切替予定はあるのか。	市域全体ではありませんが、市を一つの事業所として見たとき、その事務事業から排出されるCO2排出量は、令和5年度実績で約43,964t-CO2となっており、令和元年度実績と比べ15%減少しています。そのうち、電気の使用からは15,174t-CO2、ガス（LPG・都市ガス合算）からは3,460t-CO2が排出されています。電力に関しては、令和6年度末より、市役所本庁舎および小中学校等75施設にて風力発電由来の電力に切り替わっており、年間約5,940t-CO2排出を削減できる見込みとなっております。	
13	20	建替え予定の新市庁舎は2050年を見据えると完全ZEB化が必須と考えますが、どのような予定でしょうか。ZEB Readyでは市民の命を奪うことになりかねない。	実施設計により、ZEB Readyを目指すことが決定しております。	
13	21	森林の間伐材を利用したバイオマス発電やゴミ焼却について、食品残渣や市内の家畜の糞尿を利用したバイオガス発電などを実施していくことも必須と考えますが、どのような予定でしょうか。また、焼却の際の熱利用・熱供給を実現していただきたい。	バイオマス・バイオガス発電については、関係者との協議を進め、より具体的な実現可能性について模索していきたいと考えております。焼却時の熱利用等についても、焼却施設の改修等も踏まえ、有効利用できるか模索していきたいと考えております。	